

愛知老人コミュニティーセンター ニュース



まきば通信

第33号



「希望をもって終わりを待つ共同体として」

日本基督教団 総幹事 秋山徹

昨年末初めて「まきば」のクリスマス礼拝に参加し、入居者の皆さんや奉仕者、支援グループの皆さんと一緒に主イエスの到来を祝いました。同じ月に東京の青梅にある日本キリスト教団隠退教職者ホームの「にじのいえ信愛荘」のクリスマス礼拝にも参加しましたので、教団にとって重要な働きを担う二つの高齢者施設のクリスマスを体験しました。以前に愛知牧場にある南山教会や愛知国際病院、アジア保健研修所などを台湾基督長老の人たちと一緒に訪れる機会があり、そのときに、なだらかな丘陵一杯に広がる牧場と牛舎や売店、丘の上にそびえたつ大きな十字架と「復活苑」、南山教会の会堂とその広大な牧場の中に立つシルバーホーム「まきば」にも伺って、日本の田舎の風景とは違った広やかな場所で職員の方々の温かい笑顔に囲まれて人生のファイナルステージを過ごしておられる高齢者の方々の幸いな日々の一端にふれました。

わたしは50年前に神学校を卒業して伝道師として赴任した教会が中部教区の金沢教会で、名古屋で行われた中部教区総会で准允を受けました。そのころ戸田伊助先生や篠田潔先生が元気いっぱいの壮年牧師としてそれぞれの教会で活躍しておられる後姿を見ながら北陸の地で新米伝道者の修行時代を過ごしました。それらの先生方がこのシルバーホーム建設のために大きな働きをされたことを深い関心をもって見ていました。戸田先生は岡山の蕃山町教会の二代前の先任牧師でもあり、特別なつながりがあります。入所されている方々やこの働きを支援し支えておられる方々も日本の教会の宣教と共に担ってきた仲間でもあり、親しみを感じていました。

「にじのいえ信愛荘」でもそうでしたが、ここに集う人たち、介助者として働く人たち、支援者が交わす

《目次》

頁	
〈巻頭言〉	1
〈わたしの愛唱讃美歌〉	2
〈ご家族の声〉	3
〈「まきば」の防災対策について〉	4~5
〈まきばトピックス〉	
●行事紹介	6
●愛知老人コミュニティーセンター 宗教主事の働き紹介	7
〈編集後記〉	8

言葉や笑顔が自然で、本当の笑顔の交わりが広がっていることが強く印象に残ります。牧師として様々な高齢者施設を訪れる機会がありますが、その場を支配する入居者の群れの深い沈黙と静寂に会って圧倒されることがしばしばあります。生きている者の証しは生真面目に働く職員の動きだけといった光景に、深淵を覗き見る思いにとらわれます。しかし、「まきば」には自然の笑顔があり、人ととの交わりが生きており、これまで長い人生を生きてこられた一人一人がそれぞれの生きた顔と言葉を持っている。

もちろん、ここにはそれぞれの家族をふくめて、笑顔だけでなく厳しい老いと衰退の進行と闘う現実、涙と痛み、死の悲しみの現実があると思いますが、それらを全て受け止めて「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」との聖書のことばが息づいているのを感じます。キリストを信じ従う者の心にはみ言葉の礼拝があり、聖餐の交わりがある、そこから照らされるいのちの光がある。その光に照らし出された共同体がここにあるのを感じます。

急速に進む超高齢化社会となっている日本の中でも、とりわけ教会は高齢化しています。平均年齢80歳の人たち5名、10名で礼拝を守っている教会がどこもあります。この共同体はこれからどこに向かって進むのか、希望はどこにあるのか、これはこの時代の日本の宣教の大きな課題であることは言うまでありません。上っ面だけのきれいごとでは済まされない現実があります。

キリスト者の信仰をもって営まれているシルバーホーム「まきば」や隠退教職者ホーム「にじのいえ信愛荘」は、いわば教団の高齢者牧会と宣教の先鋭的なパイロット・プラントで、ここで何ができる、何が課題かを確かめる貴重な場であることは確かです。シルバーホーム「まきば」の働きを感謝するとともに、そこから発信される言葉に注意深く耳を傾けたいと思います。

わたしの愛唱讃美歌

その5

ご入居者様の愛唱讃美歌を紹介するシリーズの第4回目です。
好きな讃美歌にまつわる思い出を伺ってまいります。

城崎 幸子 姉
(南山教会)

讃美歌(1954年版) 284番

主のとうときみことばは
わがいのちのもといなり、
たよるわれは安けしや、
世にまたなきみことばよ。

戦争がまだひどくなる前、16歳の時、三重県川越の自宅から東京の清瀬にあった自由学園に編入して寮生活を始めました。4万坪の広大な敷地の中で、少人数クラスの個性的で素晴らしい教育を受けました。そこで初めてキリスト教に出会ったのですが、この讃美歌284番を聞いた時の感動は忘れられません。自由学園で過ごした3年の間に、だんだん戦争が激しくなって小学部が疎開することになり、私もお手伝いのために那須に行きました。本当に大変な仕事でしたが、今となっては楽しい思い出です。そこでも小学生と一緒によくこの讃美歌を歌いました。

音楽家になるつもりはありませんでしたが、フルートの音色が好きで、高価な楽器を買ってもらい、有名な先生の指導を受けながら喜んで練習に励みました。

高校3年の時に戦争が終わって、三重県の実家に帰ると生活がガラッと変わりました。蔵の物を売って生計を立てながら、父の畠仕事を手伝う苦しい毎日でした。讃美歌と聖書が支えでした。

夫は代々木教会で受洗していましたが、転勤族だったために、教会を転々とし、私は岩国教会で受洗しました。夫婦共に讃美歌が大好きで、「まきば」に入居して南山教会に転会してからも、よくオルガンを弾いて練習をしました。

戦争中も、子育ての時も、自然に浮かんでくる讃美歌はたくさんあります、なかでも好きなのがこの讃美歌284番「主の尊き」でした。

城崎幸子姉は2018年12月29日、み許に召されました。この記事は、その2週間に病床で聞き取ったお話をまとめたものです。



若山 朝子姉
(刈谷教会)

讃美歌(1954年版)312番

いつくしみ深き 友なるイエスは、
罪とが無いを とり去りたもう、
こころの嘆きを 包ます述べて、
などかは下さぬ 負える重荷を。



子どもの頃、日曜日の朝になると、5人の姉妹が両親に手を引かれて名鉄三河線に揺られ、刈谷の家から岡崎教会まで通っていました。あまりに遠かったので、私の家の家庭集会が始まりました。人数が増えるに従って碧南の集会が独立し、それでも受洗者が45人になったので、岡崎教会の伝道師だった小崎弘雄先生を迎えて、空いていた蚕小屋を改造して、刈谷教会がスタートしました。

子どもの頃の刈谷教会には教会学校が無かったこともあって、子どもにも親しみやすい讃美歌が配慮されていました。幼かった私は、この「いつくしみ深き」の前奏が始まると嬉しかったことを思い出します。そんな思いもあったので、刈谷教会に教会学校ができると同時に、教師として奉仕しました。

結婚してからは、夫の勤務の関係から各地の教会を転々としましたが、最後は刈谷に戻りました。

まだ「まきば」が計画段階だった当時、小崎先生から老人ホーム建設設計画の話を聞いて、その足で現地を見学にきました。予約してから10年ほどして私たち夫婦が入居した時、先に入居しておられた小崎先生はすでに呼吸が苦しい状態でしたが、少しの間でも一緒に生活できたことは嬉しい思い出になりました。

名古屋教会に在籍していた当時お世話になった戸田先生夫妻や信徒の皆様と、こうして一緒に暮らしていられるのも嬉しい限りです。

長く苦しんだ持病も、「まきば」に入居したらすっかり治ってしまい、「私にはこのホームが合っていたんだ」と思って喜んでいます。



ご家族の声を紹介します

「最後までポジティブに生き 神様のみ許へ」 篠田 恵見 様 (篠田潔 様ご家族)

父、篠田潔は、母、秀子と共に2010年10月から「まきば」に入居させていただき94年間の生涯を終えるまで、約8年の間お世話になりました。生涯を一教会に仕え、50年余を半田で暮らした両親ですので、半田から離れることへの寂しさはあったと思いますが、キリスト教信仰に基づくホームで夫婦一緒にお世話になれたことは、両親は勿論のこと、家族や案じて下さる半田教会にとりましてもこの上ない恵みであったと、お世話になりました皆様に心から御礼を申し上げます。

先立って他界した母は病気の進行により長く介護をして頂きましたが、毎日父が会いに行き、共に過ごすことができたことが何よりも代え難くありがたいことでした。

父は一人になりました後も、半田教会を始め多くの方々と来訪や手紙による交流が続き、毎朝の3分間メッセージ、「まきば」の方々とも絵手紙や日常会話を楽しみ、体が不自由になった晩年も充実した日々であったと思います。88歳で胆臍瘍を患い、手術を受け翌年に肝臓がんが見つかり、6年間の闘病生活ではさまざまな治療を受けました。愛知国際病院の太田先生が主治医として最後まで診てくださいました。豊田厚生病院での2度目の抗がん剤治療ではカテーテルによる感染が起り、医師から絶望的な告知を受けましたが、愛知国際病院での治療や免疫治療を受けて奇跡的に回復しました。

90歳を越え、体力的に抗がん剤はこれ以上できない状況でしたが、1年後に病気が活発になった時、父は治療があれば受けたいと太田先生に相談し、放射線治療ならと紹介していただいた偕行会名古屋共立病院で2年間にわたりサイバーナイフ治療をうけました。私は看護職の経験上「これ以上は難しいのでは?」と何度も心の中で思いましたが、父は副作用が辛くても治療を選択し、共立病院の主治医も危険性が高くなることを承知で2度にわたり慎重に治療を施してくれました。さらに私がお手伝いするクリニックの院長が手掛ける免疫治療も太田先生に相談しながら受け続けました。放射線治療後、高熱や、食べられなくなったりす

るたびに国際病院にお世話になり、どん底から低空飛行しながら回復し、「まきば」に戻ることができた時は、家族も教会の方も「父は不死身ではないか?」と思うほどでした。高齢のため、病気の進行がゆっくりであつたことや、苦痛な症状が少なかったこと、食への意欲が強いことも幸いしましたが、6年間も闘病し94歳まで長らえることができたのは「やれることは全てやる」という、父の最後まであきらめない姿勢が根本にあつたと思います。そして治療の選択肢が与えられたこと、あきらめない父の意志に対応して下さった医師に出会えたことも良かったと思います。

ベッドの生活になってからも、嘆き悲しむ姿は見せず、介護スタッフ、ナースに安心して身を委ね、ユーモアをもって交わりを楽しんでいました。最後の最後まで「まきば」は父にとって安らげる大きな家族のようなところだったのでしょう。賛美と祈りのなかで平安に満たされた父を見送ることができたことは、家族にとりましても大きな慰めとなっています。

父の晩年の夢は、「まきば」に隠退牧師専用棟が完成し、自分が第一号入居者になることでした。その目標は叶いませんでしたが、「実現することが良いのであって、自分の目で見ることが重要なことではない。」と切り替えておりました。最後までポジティブに生きる姿勢を貫いた父は、神様と、先に召された母に「よく頑張りました!」と迎えられて、神様のみ許に安らいでいると信じます。残された者は、父や母に示された背中を追いながら歩んでいきたいと思います。

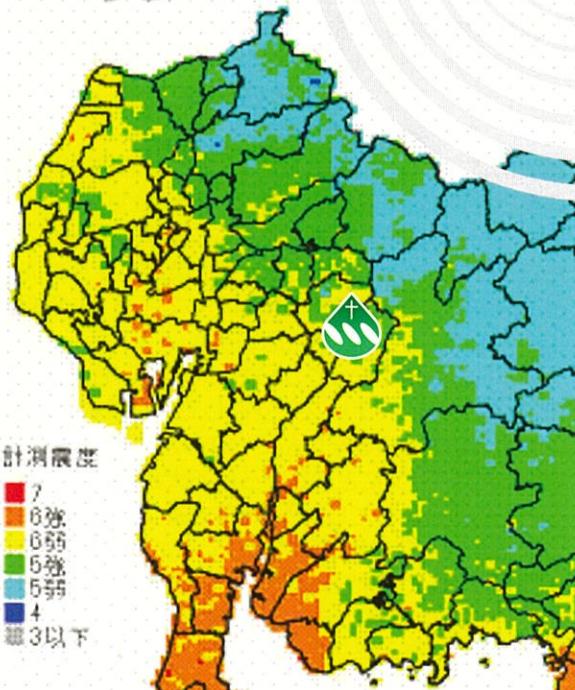
家族を代表して心からの感謝と共に、これからも「まきば」の上に一層の神様の祝福とお導きがありますようにお祈り申し上げます。



▲故篠田先生

特別企画

地震に備える「まきば」



この「ハザードプロ」は、気象庁からの高度利用者向け緊急地震速報を利用するため、テレビや携帯電話の緊急地震速報よりも早く、正確に地震情報を知らせる装置であります。また本体にも震度計が内蔵されており、他の場所にある「ハザードプロ」が検知した地震情報も受信します。

例えば自動放送の震度を「震度5強以上」と設定すると、設定震度以上の地震の揺れが到達する前に、自動放送が流れるため、各自でシェイクアウト行動をとって揺れに備えることができます。



▲緊急地震速報装置

「まきば」では年に2回避難訓練を実施しています。これまで火災時の避難訓練を行っていましたが、去年は秋に巨大地震を想定した避難訓練を行いました。



▲秋 巨大地震を想定した避難訓練の様子



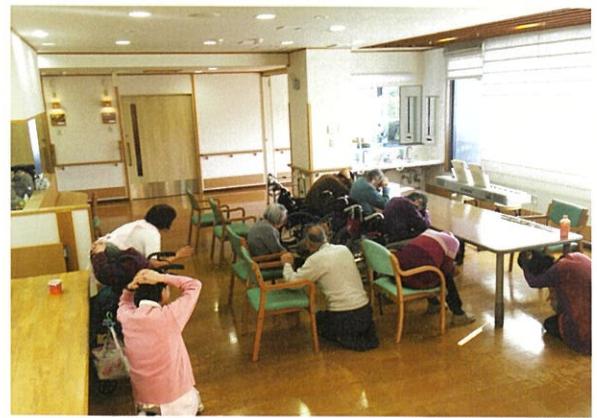
あたまをまもる

災害時献立表

1日目	
イメージ写真	料理名
■	●レトルト粥
■	●ツナフレーク
■	●飲み物(野菜1日これ一本)
■	●レトルト粥
タ	●焼鳥(たれ)
タ	●コンポート(みかん缶)
タ	●レトルト粥
タ	●さしもの漬物
タ	●ふりかけ(かつお)
2日目	
イメージ写真	料理名
■	●レトルト粥
■	●かつお味つけ
■	●飲み物(野菜生活100)
■	●レトルト粥
タ	●さばの味噌煮
タ	●みつ豆
タ	●レトルト粥
タ	●焼鳥(塩)
タ	●ふりかけ(しそ)
3日目	
イメージ写真	料理名
朝	●レトルト粥
朝	●ツナフレーク
朝	●飲み物(野菜1日これ一本)
朝	●レトルト粥
朝	●さしもの漬物
朝	●フレッシュチキン
朝	●レトルト粥
朝	●どりそぼろ
朝	●ふりかけ(のりたま)

「まきば」では3食3日分の食料を備蓄しております。先日、備蓄品である「おかゆ」の賞味期限がせまっておりましたので、普段の食事にて召し上がっていただくなどして新しいものとの入れ替えを行いました。

◀おかゆ(備蓄品)&メニュー



▲1月22日(火)シェイクアウト訓練の様子

また、巨大地震を想定した訓練として「シェイクアウト訓練」を3ヶ月に1度行うなど、各自で身を守る行動を身に付けていただけるよう繰り返し行っています。

防災グッズ(非常時の照明)の販売など

防災用ヘッドライト

注文受付のご案内

運営懇談会にて紹介させていただきました防災用ヘッドライトの注文を受け付けます。

申込書にご記入の上、事務室へお申し込みください。



防災用ランタン

注文受付のご案内

運営懇談会にて紹介させていただきました防災用ランタンの注文を受け付けます。

申込書にご記入の上、事務室へお申し込みください。



まきばトピックス

●行事紹介●

「台湾基督長老教会と教団との協議会」の皆様來訪



このページでは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

11月14日(水)に南山教会をはじめとする南山にある近隣施設を、「台湾基督長老教会と教団との協議会」の皆様がフィールドトリップとして施設見学をされました。

シルバーホーム「まきば」にも1グループが施設見学として来てくださいり、設立の経緯や、理念、現状などを熱心に聞いてくださいました。



今年度も「まきば」では様々なクリスマスの行事が行われました



クリスマスコンサートでは
歌に合わせてコグニションエクササイズ



クリスマス礼拝後の祝会で
はたくさんのご馳走が



いつも食事提供の協力をしてくれる日清医療食品の方々に、今年も豪華な御馳走を作って頂きました。

学校法人 名古屋学院 名古屋中・高等学校の生徒さんたちと共に礼拝を守り、素敵なお演奏をきかせて頂きました。

「まきば」イングリッシュクワイアが新聞で紹介されました



12月17日(月)「まきば」クリスマス会にて素敵な歌声を披露してくださった「Makiba English choir」の皆様が、12月19日(水)中日新聞朝刊(尾張東部版)で紹介されました。

メンバー11人中4人が90歳以上、その内「まきば」最高齢の方も、夏から毎週「聖書の集い」の後で練習を続け、無事クリスマス会にて5曲のクリスマソングを英語で披露することができました。

「まきば」の入居者様は元気ですよ!



愛知老人コミュニティセンター宗教主事の働き

「『まきば』の宗教主事は何をしているのか?」という質問をよくされます。今回はその質問にお答えすべく、このコーナーを設けました。

正確には日本基督教団のセンターである「愛知老人コミュニティセンター」の宗教主事となります。つまり、愛知老人コミュニティセンターが運営する、有料老人ホーム「まきば」では施設長として、また、「まきば」の宗教行事、中部教区や近隣教会・伝道所、関係学校との関わりとしては宗教主事としての働きを担っております。



特に、近隣教会・伝道所や関係学校との関わりにおいては礼拝奉仕が中心となりますが、その教会に集う信徒の方々が身近な問題として抱えている「介護」の問題について講演や発題をさせて頂く機会も与えられています。

講演後の質疑応答や、礼拝後の交わりの時に語られる内容は、高齢化による、「介護」の問題や、礼拝を守り続けるためにはどうしたらいいのか。さらには、葬儀の話まで多岐にわたります。その中でも、

「介護」に関する問題は、時に深刻な場合もあります。

これまで「まきば」は、皆様の祈りによって支えられてきましたし、「まきば」も中部教区の諸教会・伝道所の働きを祈ってまいりました。

これから「まきば」は、ご入居いただくだけの施設ではなく、もっと皆様の元へ出かけて行き、み言葉を語りつつ、皆様が抱えている課題に寄り添える施設を目指してまいります。是非、「転ばぬ先の杖」と思っていただければと思います。

どうぞ気軽にお声をかけてください。

2017年度

礼拝奉仕

碧南教会 東海教会 豊田教会
坂下教会 南山教会 各務原教会
中部学院大学 名古屋学院大学

講演・研修発題

愛知西地区婦人会連合
東海教会

2018年度

礼拝奉仕

赤池教会 名古屋中村教会
蘇原教会 春日井教会 刈谷教会
名古屋学院大学
日進教会 名古屋教会

講演・研修発題

木曽川キリスト教会
愛知西地区教師会
台湾基督長老教会と教団との協議会
(フィールドトリップにて)
刈谷教会



スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、
人格を大切に守る介護を実践してみませんか?
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



看護職員(夜間)

週1日程度から。曜日に限定がある方は
相談に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00～翌8:00(仮眠4時間あり)

【手当】精勤手当あり

介護職員(昼間)

週2日～5日

【資格】介護福祉士、介護職員初任者研修了
(ホームヘルパー)

【勤務】7:00～18:30の間で実働8時間

正職員への任用制度もあります。これから資格取得を目指している方もご相談ください。

●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当:施設長)

入居予約受付中

日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす……
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

交通機関 名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エビック南から200m

類型及び表示事項 施設の類型／介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態／利用権方式
介護保険／愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件／60才以上で入居時自立及び要支援の方
居室区分／個室及び二人部屋 介護にかかる職員体制／2:1以上

●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

見学や体験入居もできます(要予約)

キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈祷会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」にも自由に出席することができます。



編集後記

「まきば」を取り巻く風景も少しずつ春の訪れを感じるようになりました。
昨年は日本各地で自然災害が発生し、多くの犠牲者や今なお不自由な生活中におられる方々を覚えます。今号は特集として「まきば」での防災対策を取り上げました。

「まきば」のクリスマス礼拝において、秋山徹教団新総幹事によるメッセージを通し、老人シメオンの祈りと賛美から、現実の生を突き抜けた生きる道が示されました。

引き続き「私の愛唱讃美歌」(5回)と、「ご家族の声」を紹介させて頂きます。

グローバルな彩りが添えられた「まきば」でのクリスマス、感謝と喜びの歌声が全世界に届きますように。皆様の上に主の平安を祈ります。

(真木)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター

まきば通信 第33号 発行日 2019年3月10日
発行人 鈴木 卓也

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561
ホームページ <http://silverhome-makiba.jp>
E-mail info@silverhome-makiba.jp